

セブン-イレブンの持続可能な原材料の取り組み

2025年10月17日（金）

株式会社セブン-イレブン・ジャパン

商品本部 地区MD統括部

総括マネジャー 鷺野 博昭

【4つのビジョン】に基づいた会社政策

【健康】

食のWellbeing

**新しい価値
美味しさと健康**

※健康食品の拡大

- ①機能性表示
ブランド訴求
- ②健康素材



【地域】

社会と共に取組む

**立地別・地域性
への対応強化**

※立地別×地域性深堀
(使われ方見直し)

- ①地産地消
- ②国産原料



【環境】

社会課題の解決

**社会と共に
取り組む**

※環境
(持続可能性、SDGs)

- ①原材料の持続的調達
- ②環境容器



【人財】

多様な人財の活躍

**幸せな社会を
実現する**

※協力関係の構築

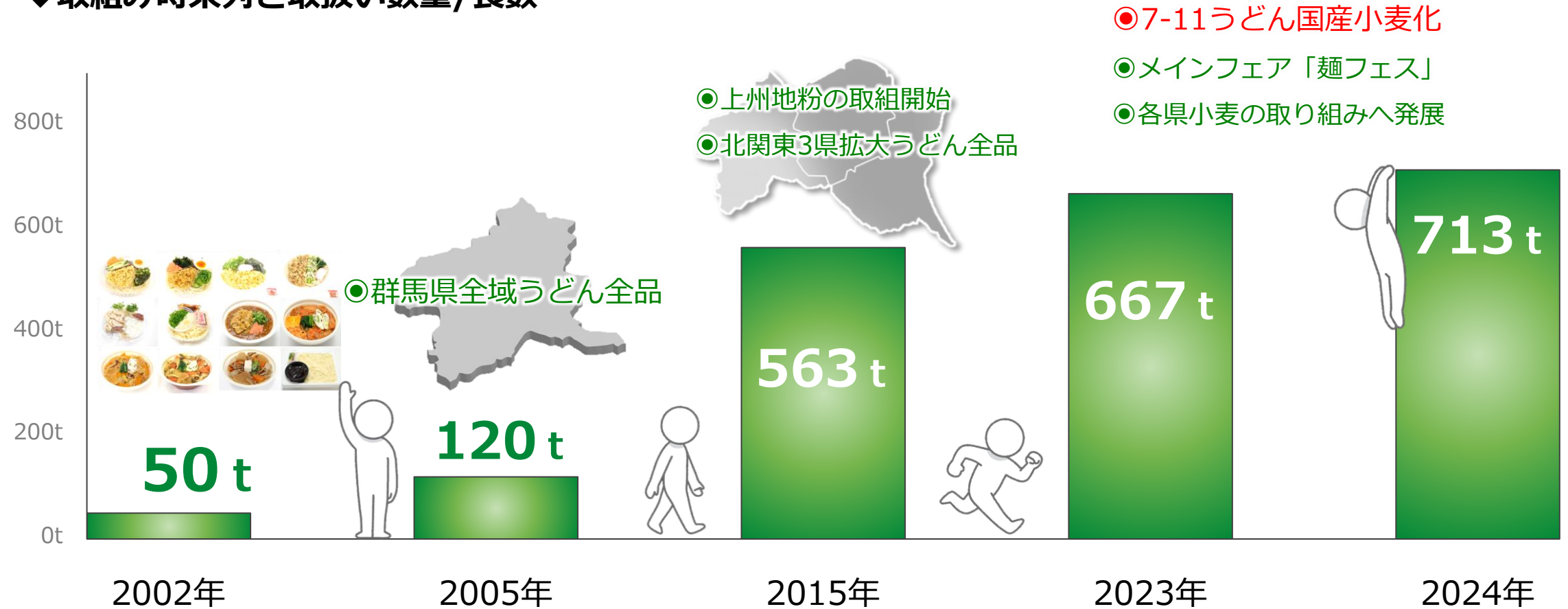
- ①バリューチェーン
全体での共創
- ②お困りごと課題解決



明日の笑顔を 共に創る

群馬県産小麦20年間の歩み

◆取組み時系列と取扱い数量/食数



行為を一つひとつ積み上げていき、**継続していくことが最も重要**

明日の笑顔を 共に創る

国産原材料の継続使用と商品連携

◆群馬県産小麦を使用した商品

「おきりこみ」

※推奨13年の歴史

冬の定番



「ひもかわ」

※23年7月24週〜推奨

夏の定番



冷やしぶっかけひもかわ 群馬県産小麦使用麺

売価：398円（税込：429.84円）

地区：北関東/埼玉県一部



24年～

【三種類の小麦配合見直し】

▶より粘りを

【小麦の挽き方を見直し】

▶より弾力を



年間を通して売筋となる商品の開発と連動することで使用量の安定化

『GREEN CHALLENGE 2050』



2050年の目指す世界

CO2排出量削減 【脱炭素社会】



脱炭素社会

CO₂排出量削減

グループの店舗運営にともなう
CO₂排出量 (2013年度比)

2050年の目指す姿

**排出量
実質 ゼロ**

[詳しくはこちら](#)

プラスチック対策 【循環経済社会】



循環経済社会

プラスチック対策

オリジナル商品で使用する容器は、
環境配慮型素材を使用。

2050年の目指す姿

100 %

[詳しくはこちら](#)

食品ロス 食品リサイクル対策 【循環経済社会】



循環経済社会

**食品ロス・
食品リサイクル対策**

食品廃棄物量 (2013年度比) 食品廃棄物のリサイクル率

2050年の目指す姿 2050年の目指す姿

75 % 削減 **100** %

[詳しくはこちら](#)

持続可能な調達 【自然共生社会】



自然共生社会

持続可能な調達

オリジナル商品で使用する食品原材料は、
持続可能性が担保された材料を使用。

2050年の目指す姿

100 %

[詳しくはこちら](#)

明日の笑顔を 共に創る

サプライチェーンと連携した「持続可能な調達」取り組み



GAP認証を受けた生産者様の野菜を使用

「GAP認証」とは、農業の持続性に向けた取り組みを推進する生産者に第三者機関から与えられる認証でセブン&アイグループではかねてよりGAP認証取得に向けて生産者様との連携を図ってきました。「持続可能な調達」の推進とともに、地産地消の取り組みの一環として、福島県産の安全・安心な農産物を全国に広める「ふくしま。GAPチャレンジ」とも連携しています。

福島県内のセブン-イレブンにて2022年4月より発売



次世代型植物工場「美里グリーンベース」の安全・安心なカット野菜を発売

美里グリーンベースは、育苗から栽培まで全自動で管理され、光源には天然光とLEDを併用。天候不順の影響を受けることなく一年中安定した生産・供給を可能にした未来の農業を目指す次世代型植物工場です。2022年、ここで育てられたレタスだけを使用した、洗わずそのまま食べられる『セブンプレミアム 宮城県美里町産5種のリーフレタス』を発売しました。

東北エリアのセブン-イレブンにて2022年4月より発売



明日の笑顔を 共に創る

福島県とのGAP認証野菜の取り組み経緯



2024年11月19日～「ふくしまプライド。」全力応援フェア
ヨークベニマルとの同時開催

2025年

この後も継続的にフェア実施

2023年

10月28日：日本GAP協会
「GAP普及大賞」受賞



第二弾：7月29日～
トマトをキーワードに
新商品展開の提案

第三弾：10月26日～
サンドイッチ使用の生鮮野菜を
すべてGAP野菜へ（福島県が初）



NEWS RELEASE

セブン・イレブンは
「GAP普及大賞 2022」を受賞しました

2022年 10月 26日

福島県の「ふくしま。GAPチャレンジ」を応援！
セブン・イレブン初！サンドイッチに使用する生鮮野菜を全て GAP 認証・野菜へ
～福島県内の店舗限定で 10月26日（水）より発売～

株式会社セブン・イレブン・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：永松文彦、以下当社）は、「持続可能な調達」の実現を目指して、福島県内のセブン・イレブン 422 店舗（2022 年 9 月末現在）で、GAP 認証を受けた野菜を使用したサンドイッチを 8 種類発売いたします。



4月21日：グループ3社で福島でのGAP
の取り組みkick off（第一弾展開）

2022年

明日の笑顔を 共に創る

福島県における取り組み【第一弾】

◆行政連携



◆グループ連携

※ヨークベニマル・イトーヨーカ堂にてGAP関連商品販売

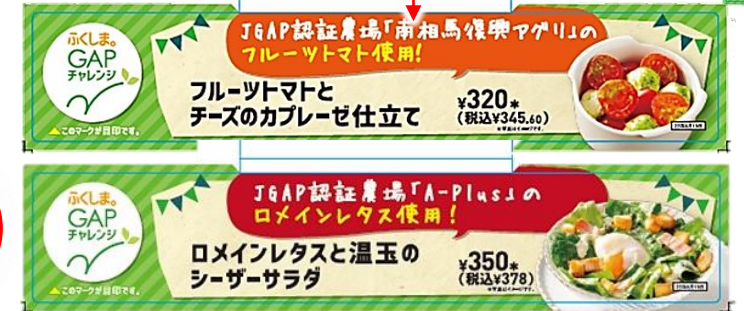


【写真】ヨークベニマル売場展開参考写真

◆店頭写真：福島県のセブン-イレブン店舗



二次元バーコード 単品ごとに**使用農場、使用品種**を明記



明日の笑顔を 共に創る

福島県における取り組み【第三弾】

NEWS RELEASE



セブン&アイ HLDGS.

株式会社 セブン-イレブン・ジャパン

セブン・イレブンは
「GAP 普及大賞 2022」を受賞しました

2022 年 10 月 26 日



福島県の「ふくしま。GAP チャレンジ」を応援！

セブン-イレブン初！サンドイッチに使用する生鮮野菜を全て GAP 認証*野菜へ

～福島県内の店舗限定で 10 月 26 日（水）より発売～

株式会社セブン・イレブン・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：永松文彦、以下当社）は、「持続可能な調達」の実現を目指して、福島県内のセブン・イレブン 422 店舗（2022 年 9 月末現在）で、GAP 認証を受けた野菜を使用したサンドイッチを 8 種類発売いたします。

<GAP 普及大賞>

一般財団法人日本 GAP 協会（事務所：東京都千代田区）が、「農場による取り組み、普及・指導や認証農作物の消費拡大に貢献した事業社（会社）および個人の取り組み」に対して、最も GAP の普及に貢献した事例を表彰。

福島県の「ふくしま。GAP チャレンジ」と連携し、県内のセブン・イレブン店舗で GAP 認証野菜を使用した商品を販売。また、当社社員やお取引先様が GAP 指導員資格を取得し GAP 普及体制を構築したことが、受賞に繋がりました。



約3年経過した現在も福島県のサンドイッチはGAP認証野菜の取り組み継続中

明日の笑顔を 共に創る

GAP認証野菜使用に向けた課題と取り組み

1 品種毎の認証使用状況 (25年6月)

→品種毎で認証比率に大きな差

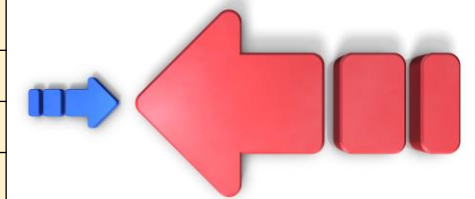


2 地域毎の認証状況 (J-GAP認証数 25年3月末)

→地域毎で認証件数に大きな差

順位	県名	認証農場件数
1	福島県	417
2	熊本県	335
3	茨城県	215
4	北海道	200
5	大分県	186

※青果物の認証農場数（『茶』除く）



3 取引のある野菜業者との連携

→野菜PCとの連動を実施



野菜PCのネットワーク
野菜PCによる団体認証

【認証費用（/件）】
 ・審査・認証料 :68,000円
 ・審査員交通費 :10,000円（約）
 ・認証農場登録料:10,000円

中小の企業では個別の交渉が難しい場合など

4 積極的な農業法人との取り組み

→成功事例を水平展開

- ▼株式会社さかうえ（農業生産法人）
1995年4月設立
- ▼資本金：6,200万円
- ▼従業員数：100名
- ▼作付面積：200ha



高い品質向上への意識

効率化・合理化への取り組み

安全安心：JGAP、団体認証



明日の笑顔を 共に創る

【宮崎県】ピーマンの九州産地リレー

▼産地をリレーして通年使用

宮崎県産ピーマンの事例
生産量:全国2位



夏ピーマン
県北：高千穂
JA高千穂

春ピーマン
県南：串間市
JAはまゆう

23年度（4～9月）
宮崎県産を継続使用

24年度
→9月～大分県産へリレー
→新たな産地をつなぎ年間使用

▼通年使用へ向けてのメニュー展開

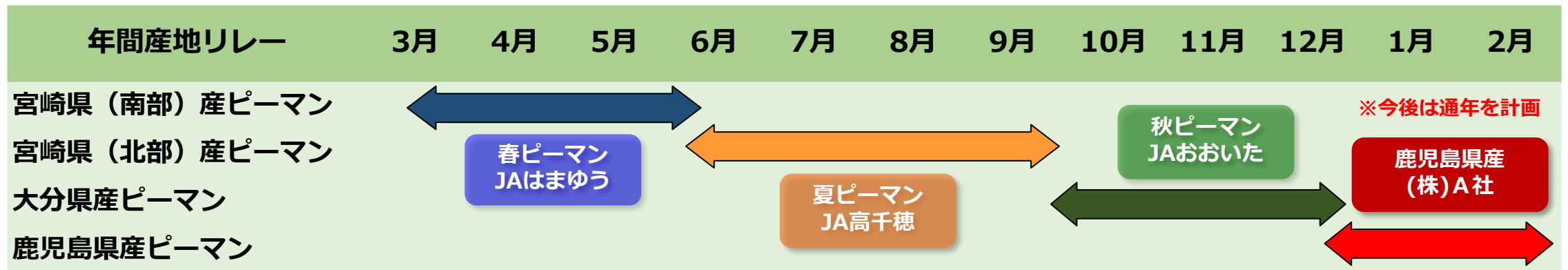
宮崎先行 → 大分フェアへ拡大

2022年4月	宮崎200店記念	胡麻香るピーマンと蒸し鶏
2023年8月	宮崎フェア	みそだれで食べる冷しピーマン
2023年10月	大分フェア	大分県産ピーマンと蒸し鶏の昆布和え

宮崎・大分フェア → ALL九州・通年使用へ拡大

2024年11月	九州ALL推奨	厚揚げピーマン
----------	---------	---------

▼産地リレーのスケジュール



GAP団体認証への取り組み

◆協力会社



◆協力会社の団体認証費用メリット

認証を受けるのは、農場or団体

- ①農場：個人農家や農業生産法人など一つの**農業経営体**
- ②団体：**団体事務局**を中心に、複数の農業経営体が集まった組織や複数の農場を管理している**企業**

農場が受ける認証 ▶ 「個別認証」

団体が受ける認証 ▶ 「団体認証」

農家が増える程
費用の軽減が可能

	個別認証 (個別農家の場合)	団体認証 (10農家の場合)
【概算費用】	65～80万円 (農家)	6.5～8万円 (農家毎)
①審査費用	約50～60万円 (農家)	約5～6万円 (審査毎)
②コンサル費用	約15～20万円 (審査毎)	約1.5～2万円 (審査毎)

団体数が増えるほど農家でのコストと販路に関するメリットが増加

明日の笑顔を 共に創る

野菜調達方法の検討



直近
現状



露地			野菜工場
露地栽培 葉菜 果菜 根菜 天候リスク高／低コスト／従来品質 対応 J-GAP農家の拡大 JGAP	天然光型野菜工場 葉菜 果菜 トマト等 天候リスク中／ややコスト高／高品質 対応 調達品目の拡大 JGAP	閉鎖型野菜工場 葉菜 天候リスク低／高コスト／高品質 対応 調達方法見直し JGAP	
露地		天然光	閉鎖型

2030年目標：GAP認証野菜比率50%